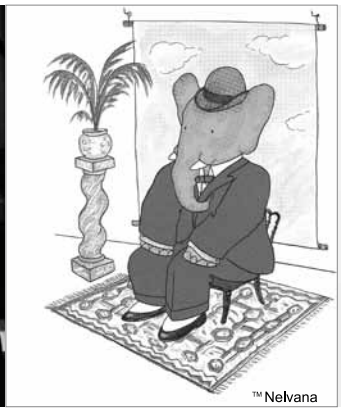
水戸芸術館 ART TOWER MITO
vivo
1-2. フィリップ・トーンドゥル　オーボエ・リサイタル
2. 小さな聴き手のためのコンサート　音楽物語〈ぞうのババール〉
3. SELF PORTRAIT 最近の公演から　4. INFORMATION
2015 AUGUST + SEPTEMBER
VOL.200 水戸芸術館音楽紙［ヴィーヴォ］
8+9

フィリップ・トーンドゥル

加藤洋之


™Nelvana

柳家花緑

高橋アキ

FOCUS

INTERVIeW with Philippe TONDRE

8.11 火　フィリップ・トーンドゥル　オーボエ・リサイタル

MCO の若きリーダーの一人、フィリップ・トーンドゥル。日本初リサイタルです！

文　関根哲也

水戸室内管弦楽団（MCO）のオーボエ奏者として、小澤征爾総監督やメンバーから絶大な信頼を得ているフィリップ・トーンドゥル。彼のオーボエは、MCO での数々の“名場面”（例えば、第 79 回定期演奏会で聴かせたベートーヴェン〈英雄交響曲〉第 2 楽章のソロや、第 90 回定期演奏会で披露したモーツァルト〈オーボエ協奏曲〉の名人芸）、あるいは地元学生を対象に定期的に行っているセミナーでのミニ・コンサートで、多くの聴衆を魅了してきました。

そのフィリップ・トーンドゥルが、いよいよリサイタルに挑みます。待望の日本初リサイタルです。5 月の第 93 回定期演奏会の期間中に、意気込みや聴きどころなどについてお話をうかがいました。

フィリップ・トーンドゥル インタビュー

――MCO に初めて参加されてから 5 年がたちました。その間、ジュネーヴやミュンヘンといった“難関”国際コンクールでの入賞、ソロや室内楽、オーケストラなど素晴らしいご活躍です。ご自身の変化をどう感じていらっしゃいますか？

トーンドゥル：人は誰でも変化していますし、日々学んでいます。私が演奏活動を始めた時は、まだ少年のようなものでした。少年は言い過ぎかもしれませんが、ともかく若かった。そういう自分にとって、MCO にいるような素晴らしい音楽家たちと、要求度の高い音楽を演奏するのはとてもやりがいのあることでした。そして同時に、驚きも困難も経験します。そして若さゆえの自信から、何でもできると考えたりします。でも時がたつにつれ、自分自身と音楽について多くのことを学んだことに気付くのです。

この 5 年で学んだ一番大事なことは、落ち着いて忍耐強くあることの大切さです。もっと若い時はあまりそういうことは考えず、とにかくやりたいことを全てやろうとして、それをするだけのエネルギーもありました。でも今は「時の流れを尊重する」ようにしています。ここ数年の自分の成長にとって、これは大事なポイントでした。今はとても幸せを感じています。人生が続くかぎり、これからも日々学び続けるつもりです。私は 25 歳ですからまだ若いし、学ぶべきことはたくさんありますから。全ては流れのままに。その中で学び続けていけたら素晴らしいと思います。

――今回のリサイタルの曲目はどのように構成されましたか？

トーンドゥル：一つのプログラムで、様々な音楽のスタイルをお見せしたいと思いました。実はここ数年、シューマンを中心にとか、フランス音楽など、テーマを絞ったプログラムを組もうとしていました。今は、いろいろな時代の音楽を組み合わせるようにしています。その方がバランスがとれていますし、聴く方に自由を感じていただいたり、多くの音楽のスタイルをお楽しみいただけますから。ハインツ・ホリガー氏も言っていますが、オーボエには数多くのレパートリーがあるので、それを生かすように心がけるべきです。そのことを念頭においてプログラムを選びました。

冒頭で演奏するシューマンの〈アダージョとアレグロ〉はご存知の通り、美しく、演奏者に要求されるものも多く、人を惹きつける力のある音楽です。皆さんがリサイタルに集中して感情移入できるようにするにはぴったりだと思います。ラヴェルの〈ソナチネ〉はとてもきれいで色彩に富み、心の琴線にふれるような作品です。元々はピアノ曲ですが、オーボエとピアノの編曲版を演奏するので、新しい作品のようです。ポンキエッリの〈カプリッチョ〉は超絶技巧的で、ロマンティックかつ情感豊かなので、第 1 部の締めくくりにふさわしいと思います。

第 2 部は趣向を変えて、ニールセンやケクランの作品を選びました。パスクッリ作曲〈ドニゼッティの歌劇“ラ・ファヴォリータ”の主題による協奏曲〉は、ポンキエッリの作品と同じように、オーボエの超絶技巧をお楽しみいただけます。演奏会の最後にぴったりの盛り上がる曲ですね。プーランクの〈オーボエ・ソナタ〉は第 2 部の始めに良いと思いました。神秘的で、複雑に書かれている

ので、様々なキャラクターを演じわけるように吹く必要があります。

――ケクランの〈ティテュロスの休息〉では、オーボエ・ダモーレを独奏されますね。

トーンドゥル：はい、今回初めて演奏する曲です。ケクランはフランスのアルザス出身の作曲家です。私も同郷なので、自分のルーツを表すような曲を入れたかったのです。オーボエ・ダモーレの音色も大好きです。この曲はとても叙情的かつ哀愁をおびていて、神秘的で…時間や現実から人の心を解き放ってくれるようです。それがこの曲の好きなところです。名人芸が楽しめる曲ではありませんが、人間がもっている美が表現されています。メロディはとても雄弁で、しなやかで、本当に情感豊かです。人の声から生み出されたような音楽だと思います。

――ピアノの加藤洋之さんとは何度か水戸で共演されていますね。

トーンドゥル：はい、加藤さんとの共演はとても楽しいです！学生へのセミナー等でご一緒する機会があり、ラヴェルやポンキエッリなどを演奏してきました。お互いのことをよく知る貴重な機会でしたし、素晴らしい音楽のひとときを過ごしました。ピアノと演奏するプログラムは、いつも大きな挑戦です。多くの細部に磨きをかけなければなりませんから。音楽的に多彩なスタイル、見せ方があるので、細部の表現まで追求したいと思います。

――最後にご自由にメッセージをお願いします。

トーンドゥル：リサイタルに招いてくださり、本当に感謝しています。みなさん、私の演奏会にぜひいらしてください。多彩なプログラムで、オーボエの様々なレパートリーをお届けします。会場で皆さんとお会いし、ぜひ一緒に音楽を楽しみたいと思っています！

2015年5月15日
聞き手：高巣真樹

フィリップ・トーンドゥル
オーボエ・リサイタル

8/11 火 18:30 開場 19:00 開演
会場　水戸芸術館コンサートホールATM
全席指定　一般3,000円　ユース1,000円
出演　フィリップ・トーンドゥル（オーボエ）
　　加藤洋之（ピアノ）
曲目　シューマン：アダージョとアレグロ 作品70
　　ラヴェル：ソナチネ
　　ポンキエッリ：カプリッチョ
　　プーランク：オーボエ・ソナタ
　　ニールセン：2つの幻想的小品 作品2
　　ケクラン：11のモノディ 作品216より
　　第10番〈ティテュロスの休息〉
　　パスクッリ：ドニゼッティの歌劇〈ラ・ファヴォリータ〉の主題による協奏曲

FOCUS
INTERVieW with 柳家花緑

9.12 土　小さな聴き手のためのコンサート　音楽物語〈ぞうのババール〉

あの「ババール」が9年ぶりに帰ってくる！人気落語家・柳家花緑さんも登場！

文　高巣真樹

大きな森で生まれたぞうのババールが、人間の町で様々な経験をし、やがてぞうの王様になる――フランスの絵本作家ジャン・ド・ブリュノフが1931年に発表した『ぞうのババール』は、世界各国で今も愛されています。この絵本にプーランクがお洒落な音楽をつけ、1945年にピアノと語りによる作品が生まれました。当館ではこれまで、演奏・語りとともに絵本のイラストを臨場感豊かに上映する独自スタイルで上演。おかげ様で水戸芸術館版「ババール」は大ヒットし、1995～97年、2004～06年に水戸で上演した他、全国14か所を巡回しました。

そして今年、9年ぶりの公演が実現します！これまで味わい深い朗読を聞かせてくださった長野羊奈子さんは、昨年残念ながら逝去されました。今回は新たに、落語家の柳家花緑さんを迎えます。昨年の水戸室内管弦楽団との共演では、音楽と一体となった語りの芸で客席を沸かせました。ピアノはもちろん、この企画には欠かせない演奏家の高橋アキさん。明晰なタッチで、ババールの世界観を情感豊かに表現してくださることでしょう。2人の初共演による楽しいステージ、大人も子供も必見です！

花緑さんが語るこの作品の魅力

「この作品では、絵に描かれたババールを少しでも立体的に立ち上げていくために、僕の語りがあると思うんです。ぞうが人間の世界にきて、すっと共存する。そこに誰も疑問を抱かない。デパートでも“ぞうがいる！”と一人も言わない（笑）。エレベーターボーイに怒られたりして普通の子供と同じ扱いをされている。まるでスターウォーズみたいな世界ですよね。いろんなものがいても“あそこに宇宙人がいる！”と誰も言わない（笑）。それにぞうが車に乗るわけないだろう！と思うけど、ババールは車で森に帰っていく（笑）。いろんな意味でファンタジックな世界です。でも長年支持されているのは、それだけ魅力があるということ。ひとつには“子供の目線”があると思います。今言ったツッコミは大人の目線。子供の目線だとそれが“あり”だということが、この本の魅力だと思います。（中略）落語家は、日常の中の面白さを普通の人の倍くらい感じ取って、そこを笑いにしています。今回は、この世界の中でのババールの反応や気持ちを僕がちゃんと感じとって演じられたらいいなと思います。」（当館ブログに掲載するインタビュー全文もぜひご覧ください！）

2015年6月23日

小さな聴き手のためのコンサート
音楽物語 ぞうのババール

9/12 土 13:30 開場 14:00 開演
会場　水戸芸術館コンサートホールATM
全席指定　大人¥1,500、
　　子ども（3歳以上12歳以下）¥1,000
出演　高橋アキ（ピアノ）
　　柳家花緑（語り）
曲目　サティ：子供の音楽集、新・子供の音楽集より
　　プーランク：音楽物語〈ぞうのババール〉

9.28 月 at 19:00　森亮子　オルガン・リサイタル～イギリスオルガン音楽をめぐる冒険

「この曲を弾きたい！」。そう思ったのは何年前のことだろう。英語も満足に話せないのにオルガニストになるという強い思いだけでオーストラリアに渡り数年が経っていた。相変わらず英語は上達していなかったが、少しずつオルガニストとしての仕事が得られるようになり、それに伴い音楽関係の知り合いが増えていった。その日はある若いオルガン調律師の自宅に招かれ、彼が夢中になって喋るオルガン音楽の話に耳を傾けていた。「この曲見てみろよ、ものすごくかっこいいんだぜ！」。そう言いながら、自慢気に彼はある楽譜を私に見せた。その楽譜は私が今まで聞いたこともなかったイギリス人の作曲家の作品で、曲自体もこれまで聴いたことのないような新しいタイプのオルガン作品のように思えた。

イギリスの文化や伝統を引き継ぎながら発展してきたこの国で出会った楽器や音楽は、それまで日本で学んできた音楽とは異なった新鮮さと驚きに満ちていた。私のその後の人生に大きな影響を与えたと言っても過言ではないだろう。

本公演では、日本で聴く機会の少ないイギリス・オルガン作品の数々を、曲目解説をはさみながらお贈りします。またソプラノ歌手の安田久美恵さんをお迎えしてイギリス民謡や讃美歌による、オルガンと声楽のアンサンブルをお楽しみください。

本公演で演奏する曲の多くは通常耳にするオルガン曲とは少し異なるイメージのものかも知れませんが、お聴きいただけたら、イギリス・オルガン音楽の魅力をきっと感じていただけると思います。皆さまのご来場を心よりお待ちしています。

森　亮子

2015.6.17
ちょっとお昼にクラシック 武久源造（フォルテピアノ）

今回はバッハと彼の息子たちの音楽を、彼らが弾いたピアノの復元品（モデル：ジルバーマン 1747 年製）の音でお聴きいただきました。出演は武久源造さん。優雅にきらめくチェンバロの音と、まろやかで表情に富むジルバーマン・ピアノの音。両者を聴き比べてみると、その違いは、若き日のバッハと晩年のバッハとの違い―あるいはバッハ以前と以後の時代の違い？―をあたかも象徴しているようでもありました。本プログラムには追加で、バッハの長男 W.F. バッハの〈ポロネーズ〉ホ短調 F.12-8 が演奏され、予定されていたバッハ〈パルティータ 第 4 番〉ニ長調 BWV828 は〈アリア〉までの演奏となりました。〈パルティータ 第 4 番〉を楽しみにされていたお客様にお詫び申し上げます。アンコールは〈パルティータ 第 4 番〉の続きの〈サラバンド〉、スカルラッティ〈ソナタ〉ニ短調 K.9 L.413。《篠田》**アンケートから**■独特の音に癒されました。チェンバロとジルバーマン・ピアノでの〈インヴェンション〉の弾き比べが面白かったです。やはり大バッハはすごいなと感じました。（日立市の方）■時間が短いのは残念でした。楽器のしくみなど、お話もいろいろ聞きたかったです。（日立市の方）■今後もこのような普段見聞きできない楽器・楽曲を使った企画をしてほしい。（ひたちなか市の方）

2015.6.28
Duo ponte nota リサイタル 2015

加藤直子さん（ヴァイオリン）と片田道子さん（ピアノ）によるデュオの公演。2 人はともに茨城県ひたちなか市出身で、桐朋学園大学在学中の 2001 年に、Duo ponte nota を結成した。今回は結成 15 周年を記念してのリサイタル。前半は、スメタナ、芥川也寸志、バルトークの小品とシューマンのピアノ・ソロ作品。後半は、ドビュッシーの〈小組曲〉、そしてメイン・プログラムであるフランクの〈ヴァイオリン・ソナタ イ長調〉が演奏された。厚い信頼で結ばれ、息の合ったアンサンブルはこの 2 人ならではと言えよう。アンコールは、マスネの〈タイスの瞑想曲〉とモンティの〈チャールダーシュ〉。《中村》**アンケートから**■日常を離れて優雅なひと時を過ごすことができました。今後もお二人のご活躍をお祈りします。（城里町の方）■ドビュッシーが最高に美しかったです。一番ゾクゾクしました。（ひたちなか市の方）■ 15 周年おめでとうございます。音が重なって、いままでにない、すばらしいハーモニーでした。（那珂市の方）

最近の公演から

1

2

1 ：ちょっとお昼にクラシック　武久源造
2 ：Duo ponte nota リサイタル 2015

information

チケット・インフォメーション

《7月25日（土）発売分》

■太田友香　クラリネット・リサイタル
10/3（土）17:00 開演
料金［全席自由］一般 ¥2,000（当日 ¥2,500）／
高校生以下 ¥1,000（当日 ¥1,500）

■小曽根真　プレミアム・ジャズ・ライヴ
10/18（日）17:00 開演
料金［全席指定］A 席 ¥4,000 ／ B 席 ¥3,000 ／
ユース（25 歳以下）¥1,500

■佐藤篤　ピアノ・リサイタル
10/31（土）15:00 開演
料金［全席自由］一般 ¥3,000 ／学生 ¥2,500

■市毛恵子　ピアノトリオコンサート
11/1（日）14:30 開演
料金［全席自由］一般 ¥2,500 ／大学生以下 ¥1,500

《8月29日（土）発売分》

■水戸室内管弦楽団　第 94 回定期演奏会（指揮：広上淳一）
11/20（金）19:00 開演、11/21（土）14:00 開演
料金［全席指定］S 席 ¥7,000 ／ A 席 ¥5,500 ／ B 席 ¥4,000 ／
ユース（25 歳以下）¥2,500

■アルモニア Rosa　第 3 回コンサート
11/29（日）14:00 開演
料金［全席自由］一般 ¥1,500 ／高校生以下 ¥1,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり（20 席以上）　△…残席わずか（20 席未満）　×…残席なし
中央…中央ブロック　左右・裏…左右ブロックおよびステージ裏　補助…補助席

◎ちょっとお昼にクラシック　室住素子のオルガン・ファンタジー
……7/20（月・祝）完売
◎フィリップ・トーンドゥル　オーボエ・リサイタル
……8/11（火）中央 ×、左右○
◎小さな聴き手のためのコンサート　音楽物語〈ぞうのババール〉
……9/12（土）中央△、左右○
◎森亮子　オルガン・リサイタル……9/28（月）自由席○
◎小川瞳　ピアノ・リサイタル……10/4（日）自由席○
◎茨城の名手・名歌手たち　第 25 回（司会：池辺晋一郎）
……10/12（月・祝）自由席○

※ 7/1（水）現在の状況です。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な 9 月のスケジュール

コンサートホール ATM

■小さな聴き手のためのコンサート　音楽物語〈ぞうのババール〉
9/12（土）14:00 開演
料金［全席指定］大人 ¥1,500 ／
子ども（3 歳以上 12 歳以下）¥1,000

エントランスホール

■森亮子　オルガン・リサイタル
9/28（月）19:00 開演
※当日は休館日ですが、17:30 に開館します。広場側の入口からご入場ください。
料金［全席自由］￥2,000

■パイプオルガン　プロムナード・コンサート
9/5（土）中田恵子、6（日）原田真侑
各日 12:00 ～／ 13:30 ～（各回 30 分程度）　入場無料

■プロムナード・コンサート　EXTRA
9/26（土）Esprit Libre Ensemble（打楽器アンサンブル）
12:00 ～／ 13:30 ～（各回 30 分程度）　入場無料

ACM 劇場

■伝統芸能のススメ［落語］柳家花緑　独演会
9/13（日）14:00 開演
料金［全席指定］S 席 ¥3,500 ／ A 席 ¥3,000 ／ B 席 ¥2,500

■日本映画が好き　9/19（土）
第 19 回水戸短編映像祭　9/20（日）～ 22（火・祝）
※詳細はチラシまたはホームページをご覧ください

■未来サポートプロジェクト Vol.6　WALK THIS WAY
茨城発・ストリートダンス！
9/27（日）14:00 ／ 17:30 開演
料金［全席指定］一般 ¥3,000 ／ U-25 ¥2,500

現代美術ギャラリー

■カフェ・イン・水戸 R
8/1（土）～ 10/18（日）9:30 ～ 18:00　※入場は 17:30 まで
［休館日］月曜日　※ただし 9/21・10/12（月・祝）は開館、
10/13（火）は休館
［入場料］一般 ¥800 ／前売り・団体（20 名以上）¥600
※中学生以下・65 歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方 1 名は
無料

水戸の主な 9 月の演奏会

■佐川文庫　TEL ／ 029(309)5020
・椿田和輝 ピアノ・リサイタル　9/26（土）18:00 開演

■茨城県立県民文化センター（大ホール）　TEL ／ 029(241)1166
・第 41 回茨城県新人演奏会　9/13（日）13:00 開演

チケットに関するお問い合わせ
水戸芸術館チケット予約センター　TEL 029-231-8000
営業時間：9:30 ～ 18:00（月曜休館）
公演内容や企画に関するお問い合わせ
水戸芸術館音楽部門　TEL 029-227-8118
ホームページ　http://arttowermito.or.jp/
公式ブログ　http://concerthallatm.blog101.fc2.com/
ATM 便り　毎月 1 回茨城新聞に不定期登場
twitter　@ConcertHall_ATM

編集後記

欲しい家具を買うお金が無いので、手持ちの棚を白く塗ってリメイクすることに。間仕切り板を外し、やすりがけを始めた所で気づきました。“これは壮大なプロジェクトである。”きちんと仕上がるか、早くも不安です。（り）

6月1日14時33分、わが子が誕生しました。元気な男の子です。生まれてからたった1ヶ月の間にも、泣き声は日に日に大きくなり、泣きのパターンも変化して、戸惑わされますが、これも成長の証ですね。育児に励みます。（篠）

御納戸色というものを初めて知った。灰味がかった暗い青。名の由来を「納戸をあけた時の靄の気配の色」と京都の帯匠はいった。つまり想像の中にある色。五感すべてで色彩をとらえる昔の人の感受性にあやかりたい。（樹）

蚊に刺される事が増えてきた。今までで一番ひどかったのは、寝ている間に両まぶたを刺された時。腕も足も出てたのに、そのチョイスはないだろう…。それ以来、どんなに暑い日でも顔にだけは布団をかけて寝ている。（稲）

ひそかにvivoが200号に到達。私は、元主任学芸員の室住素子さんが編集長をされていた第6号から加わり、編集後記で鮮烈（？）なデビューを飾っていた。「今井美樹さんと音楽会に行きたい」とか超はずかしい文章。（て）

高校時代に読んだ『気分はグルービ―』という漫画。ロックバンドに情熱を注ぐ高校生達の話だが、舞台が水戸である事を最近知った。その水戸に来て19年経つ。あの頃手にしたテレキャスターはもう無いが、懐かしい。（中）

水戸芸術館音楽紙［ヴィーヴォ］
2015年8+9月発行　第200号
編集発行：水戸芸術館音楽部門
〒310-0063　茨城県水戸市五軒町 1-6-8
TEL 029-227-8118　FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL http://arttowermito.or.jp/
編集：水戸芸術館音楽部門（五十音順）／石井亮子
稲田枝里子　篠田大基　関根哲也　高巣真樹　中村晃
デザイン：藤澤絢子
印刷所：山三印刷株式会社